

▶13日 水曜

ヨハネ



19:1 そこで、ピラトはイエスを捕えて、むち打ちにした。

19:2 また、兵士たちは、いばらで冠を編んで、イエスの頭にかぶらせ、紫色の着物を着せた。

19:3 彼らは、イエスに近寄っては、「ユダヤ人の王さま。ばんざい。」と言い、またイエスの顔を平手で打った。

19:4 ピラトは、もう一度外に出て来て、彼らに言った。「よく聞きなさい。あなたがたのところにあの人を連れ出して来ます。あの人に何の罪も見られないということを、あなたがたに知らせるためです。」

19:5 それでイエスは、いばらの冠と紫色の着物を着けて、出て来られた。するとピラトは彼らに「さあ、この人です。」と言った。

19:6 祭司長たちや役人たちはイエスを見ると、激しく叫んで、「十字架につけろ。十字架につけろ。」と言った。ピラトは彼らに言った。「あなたがたがこの人を引き取り、十字架につけなさい。私はこの人には罪を認めません。」

19:7 ユダヤ人たちは彼に答えた。「私たちに律法があります。この人は自分を神の子としたのですから、律法によれば、死に当たります。」

19:8 ピラトは、このことばを聞くと、ますます恐れた。

19:9 そして、また官邸にはいて、イエスに言った。「あなたはどこの人ですか。」しかし、イエスは彼に何の答えもされなかった。

19:10 そこで、ピラトはイエスに言った。「あなたは私に話さないのですか。私にはあなたを釈放する権威があり、また十字架につ

ける権威があることを、知らないのですか。」

19:11 イエスは答えられた。「もしそれが上から与えられているのでなかったら、あなたにはわたしに対して何の権威もありません。ですから、わたしをあなたに渡した者に、もっと大きい罪があるのです。」

19:12 こういうわけで、ピラトはイエスを釈放しようと努力した。しかし、ユダヤ人たちは激しく叫んで言った。「もしこの人を釈放するのなら、あなたはカイザルの味方ではありません。自分を王だとする者はすべて、カイザルにそむくのです。」

19:13 そこでピラトは、これらのことばを聞いたとき、イエスを外に引き出し、敷石（ヘブル語でガバタ）と呼ばれる場所で、裁判の席に着いた。

ピラトはイエス様を痛めつければ、それでユダヤ人たちの気が済むと思い、鞭打ちにします。しかし人間的な思いつきでは人は変わることはありません。あくまでも「十字架につけろ」との叫びは収まりませんでした。

人は聖霊によらなければ、イエスをキリストと告白することはできません。すなわち救い主として信じることはできないのです。またクリスチャンも聖霊によらなければ、人格に実を結ぶことはできません。聖霊によらずに、感情だけなだめようとしても無益ですから、聖霊を求めましょう。

さらにピラトのように、鍵を握る人が自分を守ることに終始していたら、事態が収まるどころかますます悪くなります。この時点で、ピラトには「何の権威も」ないのです。

聖霊による権威を主からいただいて、解決に臨みましょう。イエス様は全く弱い立場におかれながらも、その権威によって神のご計画を全うしたのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

